

## 国際化学肥料ニュース（2022年7月）

### 肥料業界の2022年7月動態

\* 6月第5週（6月27日～7月3日）の尿素国際相場がやや上向きに転じた。その理由はブラジルが6月第4週の週末に久しぶりに国際市場に戻って、第5週にも CFR640～660 ドル／トンで20万トン大粒尿素的の購入契約を締結した。ただし、インドなどの主要輸入国は尿素を購入する動きがなく、マレーシアとインドネシアはオーストラリアや南米に尿素販売のチャンスを探っている。アメリカも春シーズンの需要が終わり、在庫品を FOB575～580 ドル／トンで南米に輸出している。

中国では化学肥料の輸出「法定検査」がさらに厳しくなり、国内尿素がダブつき、7月に入ってから6日間だけで、尿素の工場出荷価格がトン当たり300人民元以上（約50ドル）も下がった。

\* 7月1日から中国政府はりん安（MAPとDAP）の輸出に「法定検査」に加え、輸出数量割当制度を導入した。内部資料によれば、湖北省の数社大手りん安メーカーは第3四半期（7～9月）の輸出割当量が計DAP13万トン、MAP6万トンである。ただし、割当制はりん安だけで、ほかの化学肥料にはまだ導入されていない模様。

\* ベトナム税関の統計データによれば、2021年ベトナムの化学肥料輸入量が19.4%増の454万トン、金額が52.6%増の14.5億ドル。そのうち最大の輸入先は中国で、尿素、DAP、化成肥料など計202万トンの化学肥料を輸入した。2番目は東南アジア諸国連盟で、尿素をはじめ計50.48万トンを輸入した。3番目はロシアで、主に塩化加里などを38.62万トン輸入した。

一方、2021年ベトナム化学肥料輸出量が16.4%増の135万トン、金額では64.2%増の5.59億ドル。主な輸出先はカンボジア、韓国、マレーシアとフィリピンである。

\* 天然ガスの価格高騰の影響で、EUではアンモニア生産能力の削減とスポット購入が急増し、前月より高い価格で取引が成立した。ノルウェーのYara社はサウジアラビアから2.5万トン、中東アブダビのFertiglobe社はインドネシアから1.5万トンアンモニアを確保して、8月にEUに到着する見込みである。EUのバイヤーは中東および東南アジアのサプライヤーへの問い合わせが増えている。ただし、ヨーロッパ以外では、北東アジアの主要な化学製品生産者からの需要が弱く、インドとアメリカの肥料生産者も輸入需要が大幅に減少して、市場は比較的弱気である。

- \* 天然ガスの価格高騰で、EU では硝酸塩メーカーは 7 月の硝安見積を引き上げた。ノルウェーの Yara 社は硝安の FOB 価格を 825 ユーロ／トンに引き上げ、5 月の 790 ユーロ／トンより 35 ユーロ高くなった。オーストリアの Borealis 社はさらに FOB840 ユーロ／トンを提示した。イギリスでは輸入硝安の価格が 6 月より 20 ユーロ引き上げ、750 ユーロ／トンで売り出した。
- \* 中国政府は化学肥料の輸出にさらに厳しい規制をかけた。7 月 1 日から尿素の輸出「法定検査」を一時停止したうえ、すでに「法定検査」をパスして、港にあるすべての化学肥料の船積みも一時停止した。7 月 8 日現在、「法定検査」が再開される動きがない。今まで、「法定検査」の期間を 30～60 日から 60～90 日に延ばすことがあるが、「法定検査」を通った肥料が輸出することができた。今回の措置は一時のものかまたは長期化するものかは不明である。
- \* 7 月第 1 週（4～10 日）の尿素国際相場が先週の一時上昇から再び下落に転じた。その原因は東南アジアと南米のバイヤーが買いを一巡して、他の地域のバイヤーが全く動かない。また、すでに噂されるインドの新しい尿素国際入札が月末に延期され、中東と東南アジア産尿素はほかの輸出先を求めて、値下げしている。EU では天然ガスの価格高騰で、尿素生産コストが 1000 ドル／トンを超えて、北アフリカ品以外にもアメリカ品を求めている。アメリカ尿素価格が一番安く、1～6 月の輸出量が平年より多くなっている。7 月にはアルゼンチンに UAN を輸出するほか、EU にも尿素 2 件を輸出する予定である。
- \* 7 月 1 日から中国政府は化学肥料輸出に対する規制を一段と厳しくすることを受け、7 月 1～10 日の 10 日間だけで中国尿素の工場出荷価格が 350～490 人民元（約 52～73 ドル）／トンを下落した。最安値が新疆産の 2300 人民元（約 343 ドル）／トン、主産地の山西省と山東省、河北省も 2600 人民元（約 388 ドル）／トン未満で、今年 5 月初めの最高値に比べ、約 20%も下落した。
- \* 7 月 12 日、アメリカのバイデン大統領とメキシコのロペスオブラドール大統領が共同声明を発表し、アメリカが 2022 年内にメキシコに 100 万トン化学肥料を輸出することを合意した。
- \* ベラルーシとロシアに対する経済制裁により、この 2 国に塩化加里を依存する国々は新しい輸入先を求める動きが強くなっている。バングラディッシュは毎年約 80 万トンの塩化加里を輸入して、その 80%がロシア品であるが、輸入先をカナダとヨルダンに変えようとして 6 月下旬にカナダと 20 万トン塩化加里の輸入契約を締結したほか、ヨルダ

ンとの交渉が続いている。また、7月7日インド RCF 社は 10.5 万トン塩化加里の国際入札を発表した。その応札条件が 8 月末に 3.5 万トン、9 月末に 3.5 万トン、10 月末に 3.5 万トンの船積みが必要で、ベラルーシ品とロシア品の応札がほぼ不可能となる。

\* 中国化学肥料の厳しい輸出規制に対応して、タイ政府は国内農業生産に必要な化学肥料を確保するため、タイ政府の副総理兼商業大臣は政府関係部署と輸入商社などを集めて、政府保証の形で民間企業がサウジアラビアから 80 万トン化学肥料を緊急輸入することを検討している。

\* 7月13日、インド IPL 社が新しい尿素国際入札を発表した。20日締め切り、購入予定数量 50 万トン、8月31日まで船積み、応札資格は尿素メーカーまたは尿素メーカーの契約商社に限定される。今年1月と4月に続き、3回目の尿素国際入札であり、購入数量 50 万トンはこの数年間最少である。また、中国尿素輸出の「法定検査」が 75~90 日もかかり、時間的に間に合わず、中国尿素が排除される見通しである。

中国税関の通関統計によれば、2022 年 1~5 月の中国尿素輸出量 53 万トンのうち、インド向けの輸出量が 8.67 万トンしかなく、昨年同期の 46.35 万トンより 37.68 万トンも減少した。

\* ベトナム税関の速報によれば、今年 1~6 月のベトナム化学肥料輸出量が 43%増の 99.8 万トン、輸出金額が 280%増の 6.47 億ドル、すでに昨年 1 年間の輸出金額 5.59 億ドルを超えた。

\* 中国側の噂によれば、中国政府は 2022 年下期（7~12 月）のりん安（MAP と DAP）の最大輸出数量を決めたようである。3 大産地の輸出割当数量は雲南省 120 万トン、貴州省 78 万トン、湖北省 70 万トンの計 248 万トン。「法定検査」前に比べて 50%未満であるが、2022 年上期（1~6 月）の MAP88 万トン、DAP130 万トンの計 218 万トンに比べ、若干増加している。

\* 中国税関の速報によれば、2022 年 6 月の化学肥料輸出量が 45.2%減の 185.8 万トン、金額が 24%減の 9.81 億ドル。その内訳は尿素が 60.4%減の 19 万トン、硫安が 18.6%増の 83 万トン、DAP が 78%減の 20 万トン、MAP が 50.9%減の 28 万トン。上期（1~6 月）の化学肥料輸出量が 41.9%減の 942.8 万トン、その内訳は尿素が 70.1%減の 72 万トン、硫安が 4.4%増の 478 万トン、DAP が 59.6%減の 130 万トン、MAP が 53.8%減の 88 万トン。

一方、6 月の化学肥料輸入量が 6.6%増の 65 万トン、その内訳は塩化加里が 24.5%増の 61 万トン、NPK 化成肥料が 70%減の 3 万トン。1~6 月の化学肥料輸入量が 13.5%

減の 458 万トン、そのうち塩化加里が 10.3%減の 406 万トン、NPK 化成肥料が 37.8%減の 40 万トン。

- \* 7月第2週（11～17日）の尿素国際相場が13日インド IPL 社の尿素国際入札の発表にもかかわらず、小幅の下落が続いている。東半球では、中国政府による尿素輸出制限の強化で中国尿素に新規契約が止まり、FOB 価格が昨年10月以来に初めて500ドル台前半まで下落した。西半球ではロシア尿素が FOB400ドル台後半に下がり、CFR ブラジル価格が2週間ぶりに500ドル台に逆戻された。
- \* 中国国家统计局の最新データによれば、2022年5月の中国化学肥料生産量491.1万トン（N+P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>+K<sub>2</sub>O 換算、以下同）、前月より2.2%増、前年同期より0.9%増である。1～5月の化学肥料生産量が0.9%増の2322.4万トン。
- \* 7月19日、ノルウェーの Yara 社は天然ガスの価格高騰が続いているため、Yara 社が EU にある数か所の化学肥料工場の生産ラインを一時停止し、合計アンモニア生産能力130万トン、尿素生産能力170万トンを削減すると発表した。
- \* 7月13日に行ったインド IPL 社の尿素国際入札は7月20日に開札された。19社が応札し、応札数量176.18万トン。最近の尿素国際相場の下落を反映して、最低応札価格は CFR 東海岸517ドル/トン、CFR 西海岸520ドル/トンである。4月28日に行い、5月11日に開札された前回の尿素国際入札の最低応札価格（CFR 東海岸720ドル/トン、西海岸715ドル/トン）に比べ、約200ドル/トン安くなっている。7月28日現在、契約購入数量59.28万トンと決定された。

### 大手各社の営業業績

- \* アメリカの窒素肥料メーカー CF Industries 社は2022年上半期の業績を公表した。世界的な肥料価格高騰で、業績が大きく伸びた。売上高は137.1%増の62.6億ドル、純利益が416.4%増の20.5億ドル、EBITDA が249.1%増の34.7億ドルである。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* アメリカの Keras Resources plc は開発中のユタ州にある Diamond Creek 有機りん酸鉱石プロジェクトが順調に進んでいると報告した。6月までの有機りん酸鉱石肥料の販売量がすでに5650トンに達した。Diamond Creek りん鉱山は地表採掘可能な資源量506万トンと地下潜在的な資源量785万トンを有し、当該プロジェクトが完成すれば、年間4.8万トン有機りん酸鉱石肥料を生産することができる。

## その他

- \* ノルウェーの Yara 社はインドの ACME グループ、ノルウェーの Scatec ASA と共同でオマーンからグリーンアンモニアを調達し、ヨーロッパとアジアに輸出するオフテイクに関するタームシートに署名した。ACME と Scatec は、オマーンの Duqm 経済特区でグリーンアンモニアプロジェクトの第 1 フェーズ（年間生産量 10 万トン）工事を開始した。完成後、状況により第 2 フェーズが追加され、年間最大 110 万トンのグリーンアンモニアを生産する計画である。
  
- \* 7 月 18 日、アメリカ国際貿易委員会（ITC）がロシア産とトリニダード・トバゴ産の UAN（尿素硝安液肥）に対してアンチダンピングまたは相殺関税の対象とならない結論を下した。2021 年 7 月、アメリカの窒素肥料メーカー CF Industries はアメリカ国際貿易委員会と商務省に、ロシアとトリニダード・トバゴから輸入する UAN の不当廉売を調査する要請書を提出した。2020 年アメリカの UAN 輸入量 239 万トンのうち、ロシアから 104 万トン、トリニダード・トバゴから 90.4 万トンで、2021 年 UAN 輸入量 250 万トンのうち、ロシアから 106 万トン、トリニダード・トバゴから 83.5 万トンであった。
  
- \* 世界初のスリランカの化学肥料と農薬使用禁止の試みは、1 年間で悲惨な結末を迎えた。2021 年 5 月、当時のスリランカ大統領 Gotabaya Rajapaksa 氏が化学肥料と農薬の輸入と使用を禁止し、世界初めて完全有機農業を実施する国にすると宣言した。しかし、その結果はコメ生産量が 50% も減少して、主力輸出商品の紅茶も生産量が大幅に減り、品質が悪くなった結果、国内食糧不足で、農産物を含むすべての物価が高騰し、経済が破綻した。  
2022 年 5 月 31 日、スリランカ政府農業大臣は食糧安全保障のために、政府が化学肥料と農薬の使用禁止令を撤回して、農家が化学肥料と農薬を適宜に使用して、農産物の生産量を増やすように要請した。Gotabaya Rajapaksa 大統領も国内深刻な経済危機を端に発する抗議デモの活発化を受け、7 月 13 日国外に脱出して、15 日に辞表を提出した。